

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成 2 年退官 1958 年防衛大学卒

御正体山ー早春の日だまり散歩ー



松山展望台から臨む御正体山

3月下旬の良く晴れた好日、御正体山（1682m）に登った。道志山塊の最高峰である。

交通不便な山でもあり、都留市駅からタクシーを乗り合わせて、登山口の道坂トンネル入口に向かった。

9時半、タクシーを降ろされた場所が悪かったか、登山口が見つからない。地図上で登路方向の見当をつけ、雑木の中、小さな沢を直登し始める。間もなくちょっとした雪溪になり、どんどん詰める。雪溪が終った後は、雑木林の中のか細い踏み跡を拾いながら、コンパスで方向を確かめつつ登る。10時20分、ポンと稜線に飛び出した所が、御正体山登山路途中の1228m点だった。ともあれ地図判読試験に無事合格、大いに気を良くした一幕だった。

それから先は、冬枯れの明るい雑木林の中、若干の起伏はあるが緩やかで広い尾根道の散歩が続く。誰かが「日だまり散歩」と言ったが正にそんな感じ。しかし木立の中で展望は殆どなし。

12時、白井平分岐で30分の昼食休憩。ここから御正体山本峰の登りになり、アイゼンを着ける。積雪は20～30cmだが、しっかり凍てついて潜る心配は

ない。ブナ・モミの自然林の中の気持ち良い登りが楽しめた。

13時20分、御正体山山頂。小広い山頂広場は真ん中に、小さな祠が半ば雪に埋もれてあるだけ。木立の中で展望はないが、しばしの山頂滞在タイム。

下山は山伏峠を目指した。御正体山から南に延びる長い尾根降りである。



御正体山山頂

南向きの、雪解けで滑り易い泥んこの急斜面を、アイゼンを着けたままダブルストック

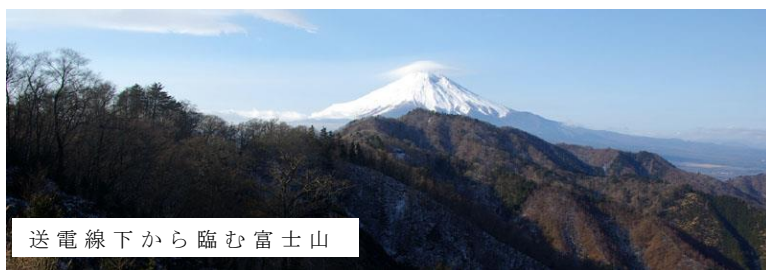
を使ってバンバン下った。こんなアイゼンの使い方もあるな、と一同納得。

14時前ノ岳。名残り惜しいがここでアイゼンを外す。14時半中ノ岳、15時10分送電線下、15時25分奥ノ院。次々と登り降りが現れるが、案ずるより産むが易しで、いつの間にか登りが終り、いつの間にか降りが始まる、といった感じ。カラマツ交じりの風情のある林の中のどかな散歩は心地良い。途中の送電線下は本日の行程唯一の展望点で、富士山の眺めが圧倒的だった。

16時、ようやく山伏峠に到着し、予約したタクシーを呼んで山中湖に出た。



御正体山本峰への登り



送電線下から臨む富士山